

神奈川県

お だ わら し

小田原市

世界にきらめく明日の 1000年都市



小田原市文化交流課

小田原市の概要

面積…一四・〇六km²

人口…一九万八七三二人(二〇〇八年六月一日)

特産物…カマボコ、干物、梅干、寄木細工など

名所・旧跡…小田原城址公園、石垣山一夜城

歴史公園、二宮尊徳生家、曾我梅林など

城下町であり、東海道の宿場町でもある小田原市は、神奈川の「西の玄関口」にある都市です。

山・川・海などの自然に恵まれた立地と温暖な気候を背景に、北條早雲を初めとする後北條氏以来、小田原城を中心に商業・文化が栄えてきました。

また、市内で発掘された多くの遺跡や古文書などにより歴史をさかのぼると、小田原には「二〇〇〇年都市」と呼ぶにふさわしいまちづくりの歴史があり、さらには、古くから富士・箱根・伊豆という国際的な観光地の広域交流拠点であったことが分かります。

小田原市は、二〇〇〇年一月に特例市に移行しました。二〇〇六年二月には全国の先頭をきって市域全域で景観計画などを施行するなど、歴史資産を生かしつつ、次代につながるまちづくりを推進しています。

姉妹都市アメリカ・ チュラビスタ市との交流

チュラビスタ市

小田原市とチュラビスタ市は、海岸に面し、気候が温暖なこと、柑橘類を栽培していることなど類似している点が多いことから話し合いが進められ、一九八一年二月八日に姉妹都市提携の調印をしました。

カリフォルニア州南部にあるチュラビスタは、メキシコ国境から一kmの位置にあり、メキシコ文化の影響が見られ、まちの中で



↑チュラビスタ市青年交流 箱根見学

もスペイン語を耳にします。面積は約一〇〇km²、人口は約二二万人で、小田原市と同規模の都市です。

☆チュラビスタ市との交流事業

市民による姉妹都市交流を目指して、一九八二年六月に小田原海外市民交流会が設立され、青年の相互交流、市民訪問団の相互交流などを行っています。

青年交流は、一九八四年にスタートし、今年度で二五回目を迎えました。毎夏、両市の青年（各四人）がお互いの市を訪問し、約二週間にわたりホームステイやボランティア活動、歴史の学習や文化体験などを行っています。

交流終了後も派遣生OB・OGは、その経験を活かして、小田原市内で外国人を対象としたイベントの開催やボランティアによる日本語教室への協力など、積極的に活動を行っています。

同交流会は、今までにチュラビスタへの市民訪問団派遣を六回、チュラビスタからの受入を五回行っており、延べ二〇〇人以上の市民の参加がありました。

このほかに、外国語指導助手（ALT）一人がチュラビスタから小田原市教育委員会に派遣され、市内の中学校で指導を行っています。

今後、青年交流、市民訪問団などを通じて、両市の交流をより一層深めていきたいと考えています。

友好都市オーストラリア・マンリー市との交流

△マンリー市

小田原市とマンリー市は、一九九一年度に開催した「ときめき小田原夢祭り」の国際交流祭りをきっかけに、青少年の相互交流を行っています。

オーストラリア東部のニューサウスウェールズ州にあるマンリーは、シドニーから約一kmの距離にあります。面積は約二五km²、人口は約四万人で、オーストラリアでは中規模の自治体です。

丘陵から紺碧の海を一望できる最高の住宅地であり、サーフィンのできるビーチは背の高い松林にふちどられていて世界的に有名です。

△マンリー市との交流「ときめき国際学校」

市民による実行委員会が主体となり、地域の国際化、市民参加、青少年育成を進めるため、市内の中・高校生を対象に「ときめき国際学校」を行っています。

「ときめき国際学校」は、一九九一年度にスタートし、今年度で一八回目を迎えました。毎夏、両市の中・高校生（各二五人）がお互いの市を訪問し、約一〇日間にわたりホームステイや学校訪問、社会見学や文化体験などを行っています。また、オーストラリアでの交流では、小田原の生徒は雄大な自然の中でファームステイを行い、乗馬などを体

験します。

オーストラリアでも両市の長年にわたる交流が高く評価され、二〇〇七年一月に「ナショナル・アワード最高青少年事業」を両市が受賞しました。

今後、多文化が共生するオーストラリアで文化の違いや国際感覚を学び、「おたわらっ子」が地球市民として世界に飛び立つていくことを願っています。



↑ときめき国際学校 小田原城見学



↑ときめき国際学校 オーストラリアで乗馬

徳島県

鳴門市

交流の歴史、 新たなステージへ



鳴門市文化交流推進課

鳴門市は、徳島県の東北部に位置する人口約六万四〇〇〇人のまちで、鳴門海峡を隔てて淡路島に対峙しています。一九九八年に明石海峡大橋が開通してからは、実質的に本州・四国間における陸続きの玄関口となりました。本市の北部は瀬戸内海国立公園に指定されており、渦潮がダイナミックに渦巻く鳴門海峡は有名な景勝地です。また、本市には四国八十八ヶ所霊場巡礼の第一番札所「霊山寺」や、世界の名画を陶板で再現した作品を多数展示している大塚国際美術館などがあることから、文化都市としても多くの観光客を集めています。豊かな自然にも恵まれており、さつまいもやワカメといった地元特産物も全国的に有名です。

鳴門市には、第二次世界大戦時に約一〇〇〇人のドイツ兵俘虜が収容された「板東俘虜収容所」がありました。当時の所長であった松江豊寿が、ドイツ兵の人権を尊重し、非常に人道的な運営をしたことから、俘虜たちは解放的な収容所生活を送ることができました。そして、わずか二年一〇カ月の滞在の間に、ドイツ兵は農業・畜産・製パンなどの優れた西洋技術を地元住民に教え、音楽の分野においては、収容所内で二〇〇回以上ものコンサートを開催しました。そのうちのひとつが一九一八年六月一日に開催された日本初演となるベートーヴェンの「第九」交響曲演奏会でした。この史実にかんがみ、鳴門市では六月一日を「第九の日」と制定し、毎年六月の第一日曜日に「ベートーヴェン」



↑ドイツ館外観



↑ドイツ人出演者

ン「第九」交響曲演奏会」を開催しています。本市では、このようなドイツ兵俘虜と地域の人々との交流を顕彰するため、一九七二年、鳴門市ドイツ館を建設しました。その後、施設の老朽化や収集資料の増加に伴い、一九九三年に現在の新ドイツ館が建設されました。鳴門市における日独交流の中核施設である当館では、ドイツ兵俘虜達が作成した図書や写真、日用品などをはじめとした当時の貴重な資料が数多く保存・展示されています。また毎年一〇月には、鳴門市とドイツの交流を身近に感じてもらうため、ドイツ館において『ドイチェス・フェスト in なる』と称する盛大なイベントを開催しています。ドイツ人によるパフォーマンスや、ドイツに関する企画展などに加えて、地域団体もさまざまな形で参加しており、毎年、たくさんのお客様の好評を博しています。

このような歴史的なドイツとのつながりがきっかけとなり、一九七四年に本市の姉妹都市となったリューネブルク市は、ドイツ北部にあるニーダーザクセン州の都市で、人口

は約七万二〇〇〇人です。本市とは、人口規模が似ており、製塩で栄えたまちであることなどの共通点があることから姉妹都市盟約の締結が実現しました。その後は、隔年で相互に親善使節団を派遣し合い、既に二〇〇人以上の市民が互いのまちを行き来しています。

本市とリューネブルク市の長年にわたる友好交流は、その独自性や、「第九」に代表されるような両都市間における文化芸術活動の推進に大きく貢献していることから、二〇〇七年度姉妹自治体交流表彰（総務大臣賞）を授賞しました。ドイツ人俘虜と地元住民の交流が始まってから九〇年以上、そしてリューネブルク市と姉妹都市提携を結んでから三〇年以上の時がたちましたが、現在も続いている交流が相互の努力により大きく育っていることを評価していただけたことは、大変光栄です。創意と工夫に富んだ国際交流を行っている団体として表彰されたことを誇りに、今後さらなる友好交流の発展に努めたいと思います。

九〇年前のドイツ兵俘虜と地元住民との温かい交流のストーリーについては、二〇〇六年に「バルトの楽園」として映画化されました。撮影のため、市内には当時の板東俘虜収容所が再現され、撮影期間中は地元住民約一〇〇〇人がボランティアで協力し、まさに市を挙げての史実の映画化となりました。このロケセットは撮影後「BANDOROケケ村（歓喜の郷）」として、鳴門市の新

たな観光施設となり、国内外から多くの観光客が訪れています。さらに、この映画は姉妹都市リューネブルク市をはじめとするドイツ国内五都市で上映されました。映画「バルトの楽園」は、本市とドイツとの深い歴史を、後世に残す記録になったと同時に、本市の誇るべき遺産を国内外に発信するすばらしい機会となりました。

鳴門市はドイツ・リューネブルク市のみならず、中国・青島市とも交流をしており、一九九九年には友好交流意向書を締結しています。これは、青島市に駐留していたドイツ兵が俘虜となって板東俘虜収容所に移送されたことが縁となりました。このようなことから、現在、本市には、ドイツ人国際交流員と青島市からの中国人国際交流員が勤務し、国際交流を担っています。二人の国際交流員は、それぞれの国や都市についての講演など、幅広い活動を展開しています。市民が気軽に友好国の人とふれ合い、国際理解を深めることができるという点で、彼らは大きな役割を果たしています。

次代を担う青少年の交流の一環としては、鳴門高校とリューネブルク市のヴィルヘルム・ラーベ校が交換留学を行っています。これまで三人のドイツ人留学生が鳴門高校に留学し、鳴門市からは一人が留学しました。また、鳴門教育大学はリューネブルク市のロイファナ大学と国際学術交流協定を結んでおり、留学生の受入れなどの交流を行っています。将来を見据えた青少年の国

際交流活動は、今後も積極的に力を入れるべき課題であると考えています。

また、二〇〇七年九月には、鳴門市が属する徳島県と、リューネブルク市が属するニーダーザクセン州が友好提携となる共同宣言に調印したことから、二都市間であった交流が一気に広がり、県内でもドイツとの友好ムードが盛り上がりつつあります。今後は県とも協力し、これまでの交流活動の幅をさらに広げ、より親密な関係を築いていきたいと思えます。

戦争という不幸な出来事がきっかけとなつて始まった交流であります。ドイツ・リューネブルク市、そして中国・青島市と三カ国に広がつたこの友好関係を、平和の象徴として、絶やすことなく次代に受け継がなければなりません。そのためにも、市民レベルの交流をバックアップし、多くの交流の場を提供するなど、さまざまな視点から新たな交流の可能性を模索していきたいと考えています。



↑市庁舎前で



↑給食を食べる使節団員